

対象者の領域	※該当する項目( )に○を入れる。 身体障害 (○)、精神障害 ( )、発達障害 ( )、高齢者 ( )、 その他 ( )
自助具の分類	※該当する項目( )に○を入れる。 食事動作 ( )、整容動作 ( )、更衣動作 ( )、排泄動作 ( )、入浴動作 ( )、 コミュニケーション ( )、趣味・余暇活動 ( ) その他 ( ○ 片麻痺上肢管理 )
用具の種類	※該当する項目( )に○を入れる。 工夫・改良品 (○)、個別製作品 (○) ※ <b>工夫・改良品</b> 市販品を工夫・改良し活用しやすくした物、 <b>個別製作品</b> アイデアから個別に製作したオリジナルな物、とする
応募作品の概要	※作品の目的や効果、特徴、新規性・独創性（オリジナリティー）などを簡潔に記載する。  当院回復期リハビリテーション病棟は、道内最大規模の病床数を有し、令和6年6月の疾患別割合では46.1%の方が脳血管障害で入院されている。その中でも、重度の片麻痺を呈した患者様が多数入院されており、亜脱臼に対する上肢保護・管理は重要である。 上肢保護・管理方法の1つとしてアームスリングがある。比較的安価に購入でき認知度も高いが、自己装着しづらく頸部等に局所的な負荷がかかりやすいデメリットがある。 今回の事例では、既製品のアームスリングを改良して装着の工程を減らす工夫により自己装着が容易となり、頸部の局所負荷に対しては保護材を作成し装着する事で局所負荷を分散でき自己装着時のストレスを減らすことに繋がった。
工夫したポイント	・鍋掴みはほつれ防止や皮膚接触感を考慮した素材とした 切った際に中綿のズレを防止するために×の様に縫われている物を使用した
利用上の留意点	※使用上の注意点、耐久性、衛生面といった留意点を記載する。  ・上肢下垂位による疼痛予防を目的としており、拘縮予防や上肢管理を考慮し常時装着は推奨しない。移乗やトイレ動作など立位姿勢となる生活場面で自己装着するように指導した。

【応募作品の紹介】 \*A4用紙2枚以内にフォントサイズ10.5ptにて記載してください。

作製の準備	※使用材質、道具、工具、材料費、などを記載する。  ・鍋掴み(綿75%以上の内容物、×の様に縫われている素材) ※100円均一100円(税抜) ・はさみ、縫い針、縫い糸、紐 ※在庫品0円
-------	--

※作品の外観、作り方・製作過程、活用場面について写真と説明文を用いて記載する。

※画像は最大 10 枚とし、自助具の特徴や使用状況が分かるような写真を使用する。

### 1. 作品の外観



### 2. 作り方・製作過程

《アームスリングの工夫・改良》

- ①体側側のバンドを外す
- ②外したバンドを前方に移動し取り付ける
- ③取り付けた部分を紐で固定する



《保護材の作成》

- ①鍋掴みの母指が入る部分を切り取る（少し大きめ）
- ②穴を貫通させる様に切る
- ③裏返して切った部分を縫い付ける
- ④表に戻して完成



### 3. 活用場面

脳梗塞(M2領域)発症後、右片麻痺(Br. stage 上肢Ⅱ・手指Ⅰ)・1横指の亜脱臼を呈した事例。既存のアームスリングは購入済みだったが、新たな物を購入する金銭・周辺サポートに余裕は乏しく、自己装着には高次脳機能障害の影響で工程理解に繰り返し指導を必要としていたため、一緒に試行錯誤しながら簡潔にできる方法に改良した。

使用後は、リハ時間内の短時間でも頸部の発赤がみられたため保護材を追加で作成したところ局所圧が分散され皮膚トラブルは無くなった。保護材は、3ヶ月経過しても破損はみられず、洗濯も可能なため、メンテナンスしやすい特徴もあった。

自己装着できた際には、「いいねー、凄いねー。自分でできるね」と好意的な発言が聞かれた。病棟とも連携しながら、トイレ・更衣(下衣)・移乗動作時に装着する習慣を設けたことで、定着していった。



応募作品の特徴

<写真の使用に関して> ※該当する項目( )に○を入れる。

用いている写真に個人情報が含まれる場合：

⇒対象者に同意を得ている (○)、対象者に同意を得ていない ( )、該当せず ( )

※ご記入いただいた個人情報は、本コンテストの目的以外には一切使用致しません。